

韓国家族旅行

李社長との出会い

2005年5月10日17時39分、下記のファックスが入った。

右城先生へ

(1) まず、私の紹介を簡単に申し上げます。

私は今年42歳である韓国の男です。土木構造を専門としています。日本語は下手です。主な業務は、擁壁とカルバートと橋梁の設計です。

(2) 先生に問い合わせのファックスを送るようになった動機は次の通りです。

先生の発刊された本は5冊もっています。5年前頃日本へ出張中、偶然に本屋で購入することになりましたが、最近では日本に出張で行ったときに先生の本を探すようになりました。購入した本は、擁壁 Q&A 選集、土木構造物設計施工の盲点、エクセルによる擁壁設計、新擁壁設計法と計算例です。これらの本を参考にして、多くの設計で本当に助けになりました。

(3) 申し訳ございませんが、下記の事項について先生の指導をお願いしたいと思います。

先生のご都合がよろしければ、一度お伺いして指導をお願いしたいと思います。指導事項は、下図のような場合の常時および地震時の土圧算定式に関することです。 - 以下省略 -

送り主は、李亨勲(Lee Hyung Hoon)氏。ソウルに会社がある大山土木技術(Daesan Civil Tech)の社長であった。

大山土木技術は、擁壁やボックスカルバートなど大型のプレキャストコンクリート製品を製造・販売している会社である。プレキャストコンクリート製品の現場継手には、前橋市に本社がある(株)カイエテクノが開発した KT ジョイントを採用しているということである。

ファックスで何度か日程調整をして決めた6月9日の10時、李(イ)社長は若い女性を伴って会社に来た。通訳の女性の名前は さん。結婚して高知市知寄町に住んでいるとのこと。

李社長は、韓国から持参してきたノートパソコンを立ち上げ、「先生の本に書かれている改良試行くさび法を用いて、マスクヤドで土圧計算のプログラムをつくりました。でも正しい土圧を求めることができません。どこに間違いがあるのでしょうか」と質問をしてきた。

擁壁背後の盛土面の形状が不連続に変化している場合には、不連続点を境にしてすべり土塊の重

量の算定式を変える必要があるのだが、それを間違えているのが原因と分かった。私の記述が曖昧であったために生じたもので、数学的にもっと正確に記述すべきであったと反省させられた。

李社長は、私の書いた「新・擁壁の設計法」という本を熱心に読んでいらっしゃるらしく、行間にハングル文字がピッシリ書き込まれていた。私の本をここまで努力して読んでくれる人がいたのかと感激した。それと共に、間違ったことを書いたら大変だと責任も感じた。

李社長はとても勉強家で、気さくな方であった。初対面にも関わらず意気投合した。昼は近くのレストラン「穀物学校」で、その夜は料亭「土佐っ子」で酒を酌み交わしながらお互いの夢を語り、韓国で私の本を出版すること、近々私がソウルを訪問することを約束した。



会社の私の部屋で李社長とツーショット



料亭「土佐っ子」で食事

旅行の日程

昨年までは、家族4人揃って旅行していたのであるが、和恵が今年の春に大学を卒業し就職したため、今回は3人だけの旅となった。

韓国の「秋夕」は、旧暦のお盆にあたる。正月と共に最も大切な祝日である。秋の実りや先祖に感謝するため、穀物や果物を供えて祭祀が行われる。「秋夕」の前後は、会社が休みとなり、都会で暮らしている人たちは里帰りをする。

今年は、9月17～19日がそれに当たるので、その期間を外し、李社長の都合を聞いて9月22日に岡山空港から出発することにした。

四国からは、松山空港と高松空港からソウル便が飛んでいるが、運行しているのは週3便だけで、運行の時間帯もよくない。岡山空港なら毎日9時45分発の便が出て、19時30分に到着する便がある。高知から空港までのアクセス時間も松山や高松と大して変わらない。高梁市に住んでいる怜佳のことを考えると、むしろ岡山空港が便利である。このような事情から、岡山空港発の「マスカットツアー・ソウルフリープラン3日間」というホテルパックのツアーを利用することにした。

大韓航空で仁川空港へ飛び、仁川空港からは現地のガイドがソウルの免税店へ案内してくれ、そこで約1時間ショッピングをした後に、事前に選んだホテルまで連れて行ってくれ、そして、3日目に宿泊しているホテルまで迎えに来て仁川空港まで送ってくれるというツアーである。免税店に立ち寄りなければならぬので時間ロスはあるが、その代わり旅行代金が一人当たり5千円ほど安くなっているようだ。

仁川国際空港インチョン・クチェコンハン

飛行機から降りて着いたのは仁川空港の2階。すぐに入国審査場に出た。パスポートと出入国カードを提示すると、何も質問されることなく簡単

に入国することができた。日本語の案内板にしたがってエスカレータで1階の手荷物受け取り場に降り、ターンテーブルから出てきたスーツケースをピックアップし、到着フロアに出ると、「マスカットツアー」の貼り紙を持った現地のガイドが待っていてくれた。

仁川（インチョン）空港は、仁川市の島を埋めて建設し、2001年3月にオープンした国際空港。最近できたということもあろうが、洗練されたヨーロッパ風のデザインで、日本の空港よりも遙かに素晴らしい。この空港ができるまでは、ソウル郊外の金浦（キンポ）空港を利用していたが、現在は、ソウル行きの国際便はすべて仁川空港に到着している。



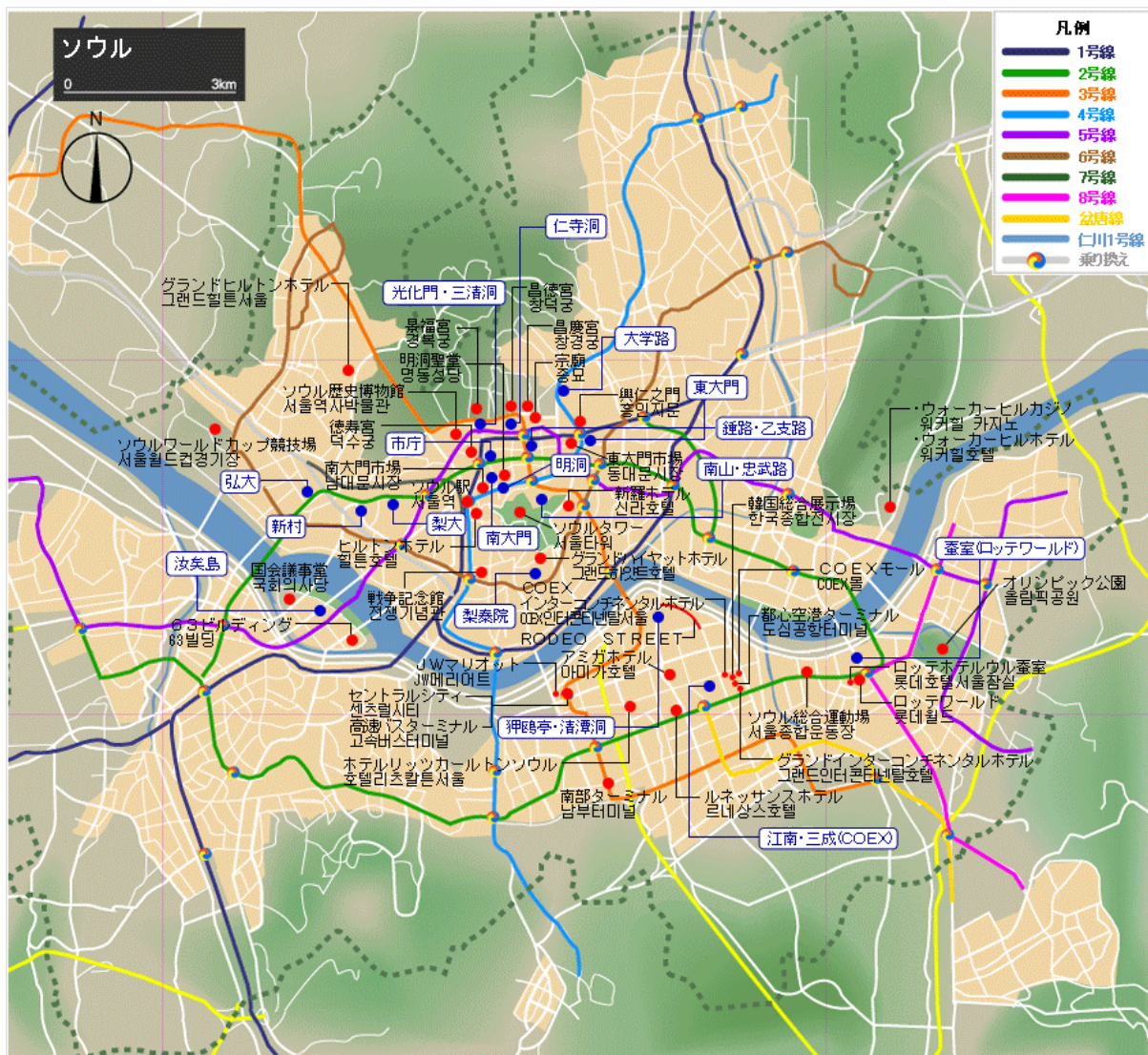
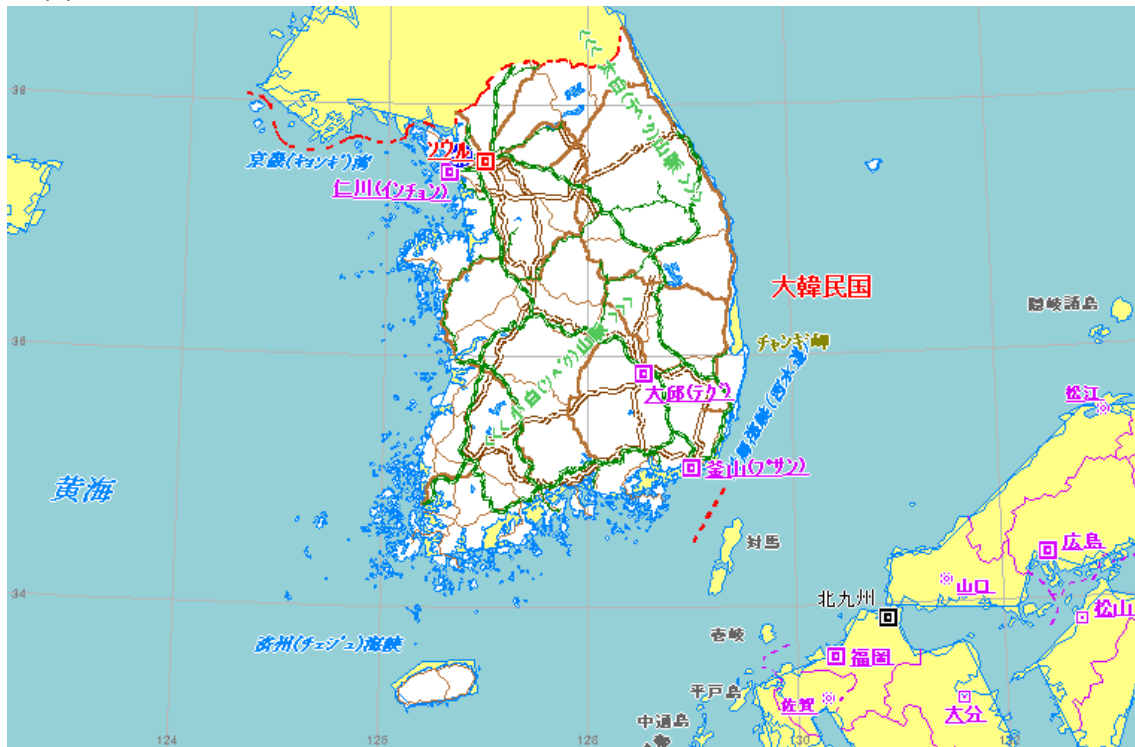
仁川空港の到着フロア



仁川空港の到着口

	午前	午後	夜
21日(水)		18:30分に自宅を出発	高梁市で泊
22日(木)	9:45 岡山空港発(大韓航空 KE765) 機内軽食 11:25 仁川空港着	免税店「東和」でショッピング 景福宮を見物	明洞の夜店を見物 全州中央会館で李社長と食事 ミレニウム・ソウル・ヒルトン泊
23日(金)	韓国民俗村を見物 昼食	華城を見物	オンダルで李社長の家族と食事 ミレニウム・ソウル・ヒルトン泊
24日(土)	仁寺洞でショッピング 南大門市場でショッピング 東大門で昼食	東大門ミリオレを見物 18:00 仁川空港発 KE761 便 19:30 岡山空港着	高梁市で泊
25日(日)	5:30 高梁市発 8:15 自宅着		

韓国の地図



東和免税店トンファミヨンセジヨム

飛行機は満席であった。でも、マスカットツアーの客は、私たちを含め5名のみ。他の空港からのマスカットツアー客2名が到着するのを待って出迎えのワゴン車に乗り、ソウル市内の免税店に向かった。仁川空港からソウル市の中心部までは約40km。所要時間は、車で約1時間10分。窓の外を眺めると、道路に平行して走る鉄道の建設工事が行われていた。仁川空港とソウル駅を結ぶ鉄道で、2009年の完成を目指しているが、工事が大幅に遅れ、完成の目途はたっていない。

ソウルが近づくと、超高層ビルが林立しているのには驚いた。想像していたよりも遙かに近代的な大都会だ。それもそのはずで、ソウル市の人口は1030万人で東京都に匹敵する。世界で5番目の大都会なのだ。人口密度は1平方キロメートル当たり17,000人。東京都よりも多い。市内の広い道路には車が何列も並んで渋滞していた。街に活気のみなぎっていた。

案内された免税店は「東和免税店」。景福宮に近いソウル中心部の光化門ビル内にある。1階は韓国の民芸品を売るコーナーで、地下1階に免税品を売る専門店が入っていた。ロッテ免税店に比べるとブランド店の数や規模は小さいが、値段は安いとの評判であった。

私は、ブランド品には興味がない。妻と怜佳が和恵への土産を買っている間に光化門ビルの周囲を散策した。光化門ビルの周りには、近代的なビルが建っているが、裏側には一杯飲み屋風の飲食店、日本人客用に偽物の革製品を売る店など古い店舗が連なっていた。なんとも不思議な光景だ。

屋台でゆでた栗を一袋3,000ウォン(300円)で売っていた。日本であれば500円が相場だろう。日本の栗のような甘みがない。以前にローマのスペイン広場で買って食べた栗とは大違い。イタリア料理と韓国料理の差が栗にまで表れていた。

ミレニウム・ソウル・ヒルトン

免税店で1時間ほどショッピングをし、ツアー客の内の二人が泊まるホテル・ロッテ・ソウルに立ち寄り、私たちが泊まるミレニウム・ソウル・ヒルトンに到着したのは、李社長と約束した15時を20分も過ぎていた。

ホテルのロビーで李社長と通訳の田素螢(JEON SO YOUNG)が待っていてくれた。李社長は、赤いバラの花を初対面の妻と娘にそれぞれ一輪ずつプレゼントしてくれた。私など考えもおよばない気配りに感激させられた。



ソウル中心部近くの高層アパート



光化門ビル地下にある東和免税店の入り口



東和免税店の前の道路を挟んだ対面の店



東和免税店の近くでゆでた栗を売る屋台



ミレニアム・ソウル・ヒルトンの正面(24日に撮影)



景福宮の南側にある正門・光化門カンファムン



ミレニアム・ソウル・ヒルトン内のレストラン



案内板の前で

ソ・ヨンは、日本語学科に通っている大学4年生。娘の怜佳と同じ22歳。父親の仕事の関係で、東京の高田の馬場と浜松町で6年間暮らしていたことがあるとのこと。日本語が達者である。

ホテルのレストランでケーキを食べながら、ソウル滞在期間中の日程の打ち合わせをし、その後で李社長の車に乗せてもらって景福宮の見物に出かけた。

景福宮キョンボクン

景福宮は朝鮮時代を開いた太祖李成桂イ・ソンゲによって、1394年に造られた宮殿。ところが、1592年に豊臣秀吉の侵略のため、加藤清正の率いる軍の手によって焼失された。その273年後の1865年に再建されたものの、日本の植民地時代に破壊された。1990年から復元事業が行われており、2009年までに完成する予定になっている。

景福宮が再建されるまでの273年間、朝鮮の正宮として使われていたのが昌徳宮。朝鮮時代の建築文化がよくうかがえることで世界遺産に登録されている。しかし、美しさや壮かさなどを考えると、ソウル一番の見所は景福宮と言われている。

時間を掛けてゆっくり見物したいポイントの1つであったが、既に17時過ぎになっており、閉館の時間が迫っていたことから入館できなかった。



興礼門フンネムン(2001年11月再建)



興礼門フンネムン



夜の明洞の街



明洞の屋台

明洞ミョンドン

明洞（ミョンドン）は、南大門市場の近くの繁華街。もともと日本統治時代に日本人居住区・商業中心地として発展したのが始まりである。現在、国会議事堂や証券会社が立ち並ぶオフィス街は、漢江（ハンガン）を渡ったソウル南西部に位置する汝矣島（ヨイド）になっているが、70年代に汝矣島が開発される以前は、明洞が韓国経済の中心地であった。

ガイドブックによれば、明洞には高級ブティックやカラオケ、メガネ店やファストフード店、屋台や露店などが数多く立ち並んでおり、韓国でもトップクラスの規模と人気を誇る観光地。主婦層の多い南大門市場に比べ、ここでは若者の姿が多く見られる。また、日本人観光客にも人気の高いスポットの一つであることから、日本語で表記された看板も散見され、日本語を話すことができる従業員が他地域と比べ多い。

深夜になっても人の足が絶えることは無い。中華学校があることから中華料理店が多く、華僑が多く集まる街としても知られているが、世界各国のチャイナタウンと比較するとその規模はかなり小さい。翌朝まで営業するファッションビルである「ミリオレ」や韓国カトリックの象徴といえる明洞聖堂があることも特徴。



明洞の全州中央会館の入り口



李社長がご馳走してくれた全州中央会館での食事



遠足の小学生にぎわう韓国民俗村の入口

全州中央会館チョンジュチュンアンフェグアン

石焼きビビンバは、韓国古来からの韓国料理。冷めないよう熱せられた石の器(店によってはアルミのボール)に、各種惣菜とヤンニョン(薬味)をいれ混ぜて食べる料理。全州中央会館は、ビビンバを専門に40年以上の歴史をもつ店として有名。日本のガイドブックには必ず紹介されている。

怜佳が焼肉を希望したので、李社長がこの店に連れて来てくれた。高級焼肉店というよりも大衆食堂という感じの店。私たち以外に4組の客がいたが、皆さん日本人観光客。ガイドブックを見て入られたのか、石焼きビビンバを食べていた。

私たちが食べたのはブルコギ。マトンのように野菜と一緒に肉を鍋で焼いて食べる料理。この店で使われる肉はすべて韓国産で、味が淡泊で香ばしく、臭みがなく、噛めば噛むほどお肉の甘みが出ると自慢するだけあって、とても美味しかった。

韓国民俗村ハングッミンソクチョン

23日は、ソ・ヨンがタクシーで水原市の華城と龍仁市の韓国民俗村を案内してくれることになっていた。9時50分、約束の時間の10分前に1階のロビーに降りてゆくと、李社長がタクシーの手配のためにわざわざホテルに来てくれていた。

韓国では、車の屋根に付いた表示灯が黄色のタクシーが高級タクシーで、料金が一般のタクシーの2倍するとのことであった。10年間無事故でなければ、高級タクシーの運転手になることはできないそうである。

ソ・ヨンは朝のラッシュに巻き込まれたらしく、10分遅れでやってきた。

タクシーの運転手のアドバイスで、先ず韓国民俗村を見学することにした。民俗村は、ソウルから南に約40キロメートル離れた龍仁市にある。民俗村に到着したのは10時20分頃にな



韓国民俗村の入口

っていた。車で約1時間かかった。

全国から韓国の小学生、中学生、高校生が観光バスで遠足に来ており、広大な駐車場には、約100台の観光バスが並んでいた。

韓国民俗村は、韓国の民俗文化資料を収集・保全し、野外博物館として、子供たちには現場学習の場として、さらに外国観光客に韓国の伝統文化を紹介する観光地として1974年につくられた施設である。

30万坪という広大な自然環境の中に、朝鮮半島を中心とした民族の生活様式を総合的に見ることができるよう、李氏朝鮮時代後期の伝統家屋約26軒を移転、復元している。またその地方の色々な家財道具を展示し、衣食住生活が再現されている。20ある工房では陶磁器、箕、籠、竹器、木器、柳行李、韓紙、柳器、刺繍、組み紐、扇、楽器、青桐祭道具などを生産する姿を見ることができる。

民俗村では多様な伝統生活を体験することができると共に、付属の民俗館や博物館でも民俗文化を見学することができるようになっている。

入場料は大人8,500W。たったの850円である。

民俗村に入って少し行くと、韓国の民族衣装である韓服(ハンボッ)を着て記念撮影できる場所があった。怜佳と私がそれを着て写真を撮るそれぞれ1回ずつ、二人並んで1回、計3回撮影してもらった。後で写真代が12,000円だと言われて高いの

にビックリ。精々3,000円だろう。ソ・ヨンが高すぎると抗議してくれて、やっとのことで4,000円にしてもらったのであるが、民俗村を見物して帰り際に引き取りに行くと、怜佳と二人並んで撮った写真しか渡してもらえなかった。1回の撮影代が40,000Wであったようである。後で、ガイドブックを見ると、写真代が高いと書かれていた。

敷地が広大であるので足早に見ても2時間はかかる。ゆっくり見ようと思えば半日は必要である。民俗村の中には民俗館や遊園地もあり、見応えがある。食事を済ませ、タクシーを待たせてある駐車場へ出てきたのときは既に12時を過ぎていた。



魔よけ



結婚式の韓服を着付けしてもらっている怜佳



キムチを保存している壺と味噌を作っている女性の蝋人形



民族衣装である韓服(ハンボッ)を着用して記念撮影



陶器を焼くノブリ釜



精米をする臼



民家の外に造られたトイレ。日本でも昔の農家ではこのようなトイレがあり、糞尿は肥料に使われていた。



昔のお仕置きを体験している女生徒



公演会場では1日2回、韓国の伝統的な踊り農楽が披露されている。ドラ・太鼓を打ち鳴らしながらエネルギーに踊る



牢屋



縄跳びをして遊ぶ子供達



檻の中の蠟人形でできた受刑者



貴族の屋敷



楮で韓紙をすく水槽。和紙と同じ



民俗村での食事。食券を買ってセルフサービス。



便所を兼ねた黒豚を飼う豚舎。糞が黒豚の餌になる。



豆腐のチゲ定食。チゲとは韓国語で鍋の意味。



ブランコに乗って遊ぶ子供達



昔の農家



民俗村の中を流れる川に架けられた石造アーチ橋



熱心に説明を聞く子供達



民俗村の中を流れる川に架けられた原始的な木橋



民俗村の中を流れる川に架けられた木橋



万里の長城に似た全長 5.52Km の城郭



民俗村の中を流れる川に浮かべられた筏



世界的に珍しい水上樓閣

水原の華城 スウォンファソン

水原市にある華城は、華城行宮という王様の別邸を中心に、韓国の“万里の長城”ともいわれる全長 5.52Km の城郭と、砲台、やぐら、兵士の休憩所、軍事指揮所、訓練所などの様々な軍事施設から構成されている。

華城は朝鮮時代後期の 1794 年から 2 年かけて、石とレンガを使うヨーロッパの建築技術を用い建築が始められたが、完成を前に王がなくなり還都そのものが実現しなかったため、城壁と樓閣だけしか完成していない。しかし、世界的に珍しい水上樓閣などが観光客を魅了している。

1997 年には、ユネスコ世界遺産に指定されている。

城壁はハイキングコースになっているが、アップダウンがあり、歩けば 1 周するのに 2 時間以上かかるようである。私たちは、電気で動くタイヤのついた列車にのって見物した。城壁の周りを 30 分かけて半周し、引き返すようになっている。

列車が通行するのは、城壁の周囲の歩道。2 箇所所で車道を横断する。その際には、車掌が降りて一般の通行車を止めてから進む。





列車の終点。山頂は見晴らしが良いと聞いて階段を登る。



列車は2機あり、途中ですれ違う。



山頂には華城(西)将台があった。



山頂のベンチで一休み



見学用の列車

李社長の家族と食事

華城の見学を終えると16時を回っていた。他を見学する時間的な余裕はなくなっていたので、李社長との約束のシェラトン・ウォーカーヒルホテルに待たせてあったタクシーに乗り直接向かった。

シェラトン・ウォーカーヒルホテルは、ダウンタウンから少し離れたソウル市街地の東端に位置している。広大な敷地に建てられた五つ星の最高級ホテルで、ホテルの中にはソウルで唯一のカジノ、免税店がある。

地下1階の韓国料理店オンダルには、約束の18時よりも15分ほど早く着いた。10分くらい待つと、李社長奥さんが3人の子供を連れて現れた。長女が高校1年、次女が小学6年、一番下の長男が小学5年生。

奥さんは、李社長から事前に聞いていたのとは異なり、女優のような美人。小学校の先生をされている。子供の教育には大変熱心で、公文を習わせているとのことであった。

家族で長崎、別府温泉、高崎山、広島を訪問したことがあるとの話であった。

李社長は車が渋滞しており遅れるようであったので、先に食事を始めることになった。

ガイドブックによれば、この店は、韓国の宮廷料理も食べられる店のようなのであるが、出てきた料理はカルビの焼肉が主体。網で焼きながら食べるのではなく、鉄板で焼かれたカルビを皿一杯に盛ったものが、一人一人に出された。

カルビを付け合せの味噌、またはキムチやナムル(野菜やワラビなどを刻んで、塩ゆでたしたものを調味料とゴマ油であえたもので、ピビンパなどの具に使われる)などと一緒にサンチュで包んで食べる。骨付きのカルビも混ざっていたが、骨には肉が殆ど付いていないのでどのように食べたらよいのか分からなかった。



李社長の家族との食事



韓国の土産を売るインサドンの店



シェラトン・ウォーカーヒルホテルのロビーで記念写真



インサドンのスターバックスでコーヒーを飲む

カルビは量が多くて食べきれなかったので、余りをパックに詰めてもらいホテルに持って帰って翌朝食べたが、肉は軟らかいままで美味しかった。

李社長は30分くらい遅れてやってきた。仕事がとても忙しいようである。結婚以来、家に帰るのは毎晩夜中の11時頃であり、早く家に帰ってこないのが奥さんにとって不満のようであった。

李社長の趣味は登山と映画とのこと。会社の名前を「大山」と付けられていたのが理解できた。

来年の夏には、高知のよさこい鳴子踊りで再会することを約束して、李社長家族とお別れした。

仁寺洞インサドン

今日はソウルに滞在する最後の日。ソ・ヨンが9時にホテルに迎えに来てくれた。

インサドンにはタクシーで行った。韓国の伝統工芸品や伝統茶を売る店が多数並んでいるが、十時になる前に着いたので、ほとんどの店は開店していなかった。

インサドンの金城画廊(Kum Sung Gallery)で「農民の秋の生活」が韓紙に描かれた水墨画を20,000Wで買う。韓紙とは楮(こうぞ)を原料として作られた紙で、日本の和紙と同じである。

スターバックスでカフェモカを飲んだ。スモールサイズが一杯が4500Wと高いのには驚いた。日本の1.4倍もする。

ソ・ヨンに給料を尋ねると、李社長の会社での彼女のアルバイト料は、時給千円。週に2日行って、1日に4時間働いているとのこと。仕事の内容は、日本の会社とのファックスのやりとりで、それ以外の時間には私の書いた本をハングル語に翻訳しているとのこと。李社長が書いたとはばかり思っていたハングル語は、全てソ・ヨンが書いたものであった。

ちなみに、コンビニでアルバイトをすると、時給は4000W、400円とのこと。給料の割にコーヒーは高すぎる。大卒の初任給は、年間約200万円。韓国は学歴社会なので、高卒は大卒に比べて給料が極端に安いそうである。

南大門市場ナンデムン・シジャン

韓国の国宝第1号に指定した南大門から歩いて5分の所に南大門市場がある。韓国最大の総合市場で、衣料品、クセサリー、食料品、メガネ、食器、皮革製品、玩具、チマチョゴリ、高麗人参、海苔などを売る1250件の店補がひしめき合っている。毎日50万人近くの買い物客が訪れるだけあって、

品揃えの多さにも圧倒される。

高級ブランド品とそっくりのバッグや帽子などが山と積まれていた。歩いていると、「社長、偽物のバッグはいかが、時計を見て行って...」と呼び込みを受けた。以前に比べれば引き込みが随分と控えめになっているようである。

韓国のガイドブックには、どの本にもメガネの広告がたくさ出ている。それだけあって、眼鏡を売る店舗も多い。日本に比べれば相当安いようである。



眼鏡店



屋台ではキンパブ(海苔巻き), 卵の巻き寿司も売られていた



海苔や松茸, 高麗人参を日本人に売る土産店



餅に明太子の味付けをしたようなトッポギ。ソ・ヨンに勧められて1パックを3,000Wで買ったが、私が食べたの1個だけ。美味しいとはお世辞にも言えない。



怜佳は土産用の海苔を買って抱えている。私が被っているのは、10,000Wで買った偽のブランドのキャップ。



足のない乞食。何人も見かけた。



修行僧の格好をした乞食たち



70,000W で買った老眼鏡をかけて見え具合を確認している妻



若者に人気があるというミリオレの入り口

東大門トンデムン

東大門は韓国最大の規模を誇る衣料中心の卸売市場。東門市場，東大門総合市場，広蔵市場，平和市場などたくさんの市場がある。

私たちがソ・ヨンに案内されて行ったのは，平和市場の中のミリオレ。興仁門路を隔て東大門サッカー場，ソウル市営球場の対面に位置している。ガイドブックには，大型ショッピングモールの先駆け。婦人服の充実ぶりは群を抜いていて，若い女の子に大人気。女子大生一押しの店，と紹介さ

れている。

しかし，ソ・ヨンによると，ソウルの女子大生達は，ここには来ない。若者に人気があるのは，漢江（ハンガン）の対岸にある狎鷗亭洞（アックジョンドン）。高級住宅街とデパート，高級ブランド店，ブティックがたくさん並ぶエリアがあるようだ。今度来られるときは，アックジョンドンに泊まるのがよいと教えられた。

あとがき

ソウルの旅は，2泊3日という短いあわただしいものであったが，李社長とその家族，3日間付き添ってくれたソ・ヨンのおかげで，充実した思い出に残る楽しい旅となった。特に，皆さんと一緒にのお食事，韓国民俗村の見学は，韓国人の文化や生活を知る上でとても勉強になった。

ソウルに行った際に，「擁壁の解析と設計」という題名の，12章からなるA4版サイズ250ページほどの原稿を持参して李社長に渡してきた。李社長の手でハングル文字に翻訳し出版され，韓国の多くの土木技術者に役立つことを願っている。

今回の旅でソウルが本当に近いことを知った。岡山空港から仁川空港までの所要時間は，約1時間30分。時差もないので，沖縄や北海道に行くのと大して変わらない。いつの日か，李社長と一緒に仕事をする機会に恵まれることを念じている。

右城 猛
(2005.10.5)